



景況DI値は製造業、非製造業ともに下降に転じる

概況(全体)

8月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.3%(前回調査10.0%)、「悪化」が55.0%(同50.0%)で、業界全体のDI値は-46.7となり、前月調査と比較し6.7ポイント悪化した。

全国及び東北・北海道ブロックは、改善基調であった製造業も部品不足や原材料等の高騰により低下した。また、小売業、サービス業等の非製造業もコロナウイルスの感染拡大や気候変動の影響があり、引き続き景況感は低迷している。

業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が減り、「悪化」したと回答するところが増加した。

非製造業においては、「好転」と回答した数には増減がなく、「不変」から「悪化」へ変化したと回答する業界が増加した。

結果として業界全体のDI値は下降方向に転換している。東京オリンピック開催の経済効果は無いまま、多くの業界が、燃料等原材料の高騰で企業経営に苦慮している状況である。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-46.7	-35.3	-39.2
製造業	-37.5	-28.1	-33.0
非製造業	-52.8	-40.8	-42.7

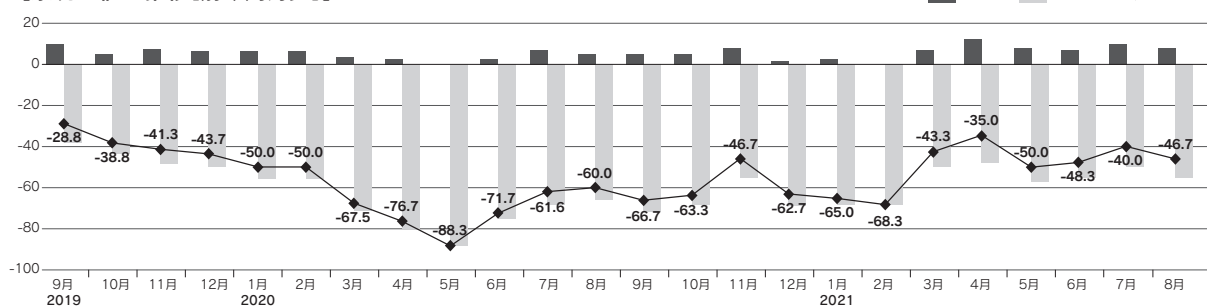
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	⚡⚡⚡	☂	⚡⚡⚡	☀	☁	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡
非製造業	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡	☂	☂	☂	☂

【凡例】
 ⚡⚡⚡ 雷雨 -30以下
 ☂ 雨 -30超 -10未満
 ☁ 曇り -10以上 10未満
 ☀ 晴れ 10以上 30未満
 ☀ 快晴 30以上
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

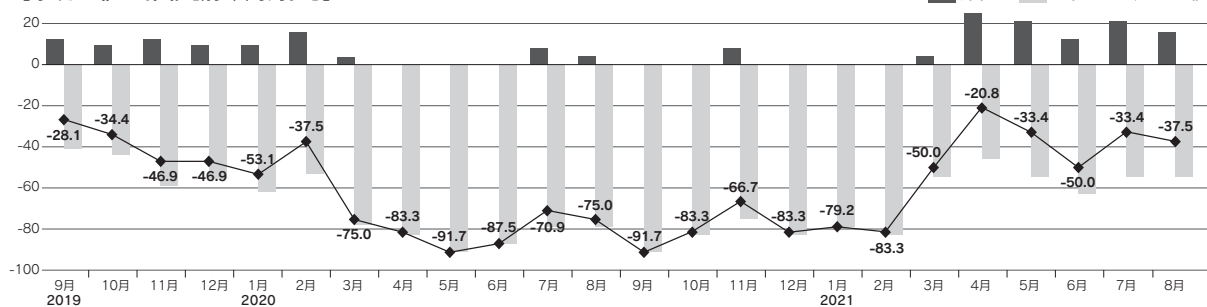
業界全体

【景況DI値の推移[前年同月比]】



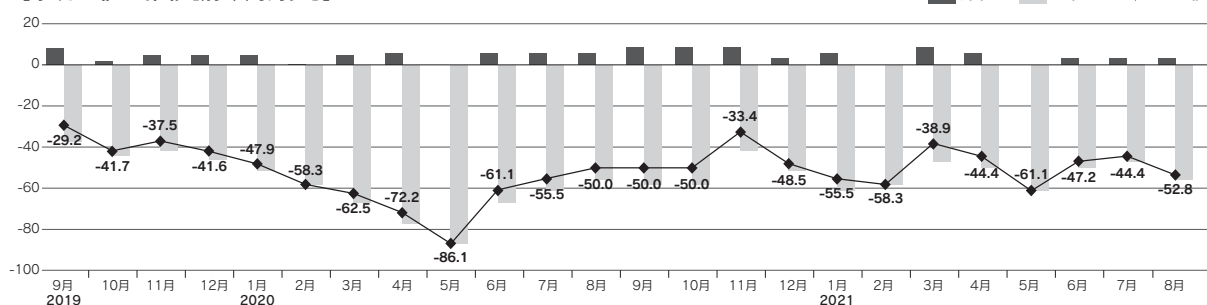
製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



非製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品 (パン)】

8月は天候不順により、売上が伸びず、現状維持も困難となっている。主力の学校給食も新型コロナウイルス感染拡大で学校の休校や、給食が中止された市町村もあり苦戦している。また、原材料の値上げが止まらず、収益面が悪化している。そのため大手メーカーは10月から一部商品の値上げを発表している。

【食料品 (精穀・製粉)】

新型コロナウイルスの感染者増加による帰省の自粛や、気温の高い日が続いたことで売上は低迷しており、厳しい状況が続いている。

【繊維工業】

引き続き取引先のアパレルメーカーの不調により、受注状況が悪化しており厳しい状況である。一部、ASEAN地域のロックダウンにより生産が国内へ戻っているが、加工賃は低く、それでも仕事の確保のため受けざるを得ない状況で、収益の悪化が加速している。

【木材・木製品 (一般製材)】

8月の製品出荷量 (販売量) は、前年同月比160%で国産材の需要は好調である。「ウッドショック」の状況がいつまで続くか予測は困難であるが、その期間の原木の安定確保が常に製材所の課題となっている。

【窯業・土石製品 (生コンクリート)】

8月の出荷数量は前年比88.9%。4月～8月累計で93.8%となった。秋田中央地区と県南地区で出荷数量の半分以上を占めるが、両地区とも動きは鈍い。特に県南地区の落ち込みが顕著。今後、秋田中央地区で裁判所の建設等、動きがあるので期待したい。

【鉄鋼・金属 (鉄鋼)】

2021年当初は受注量が落ち込んでいる組合員が散見されていたが、受注量については、各組合員の操業度が上がってきたと実感している。しかし原材料価格の上昇は引き続いており、今後も更に上昇傾向にあるとの情報が鉄鋼商社から伝えられている。加えてボルト類を含む材料の入荷に時間がかかるようになってきており、今後の受注への影響が心配である。

【一般機器 (金属加工)】

受注については大半が前年同月比プラスとなっており、一部ではあるが、設備投資を実施している事業所もある。原材料の価格は高い。

【その他の製造業 (漆器)】

6月以降、販売客数、販売額等昨年のおよそ半分に減っている。新型コロナウイルスの状況は、ほぼ変わらないが、県をまたぐ移動の制限が、影響していると思われる。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業 (青果)】

今夏の異常気象 (高温・大雨・雨天長期化等) により、青果物は全般的に生産量が減少したため、売上高の減少を招き、対前年比で5～10%売上減少となった。

【小売業 (スーパー)】

コロナ禍において、ケータリング会合等の仕出しが減っている中で、アルコール、マスク、手袋その他コロナ前にはなかった経費が増加している。また小麦、油など原材料が値上がり、10月からは秋田県の最低賃金も上がる。コロナにより売上が減少傾向にある中、コストの増加は利益の減少となるため、人員整理なども視野に入れる必要がある。

【小売業 (花卉)】

今年は暑くなる時期が早く、お盆に合わせた生産ができなかったようで、お盆の繁忙期に売花が無かった。一方、コロナで帰省出来ない方が多く、お花を贈って欲しいという注文が多かった。お盆以外は暇で、コロナ禍が長引けば閉店しなければならない事業者も出てくる可能性がある。

【商店街 (鹿角市)】

お盆過ぎから鹿角もコロナ感染者が出始め、それにより、外出 (買物、外食) を控える傾向が高くなっており、商店街全体的に落ち込んでいる。

【サービス業 (旅館)】

秋田県のコロナ警戒レベルが4に引き上げられたことや、自粛の呼びかけが繰り返されたことから、キャンセルの増加や外出控えなど宿泊業界への打撃は大きかった。

【サービス業 (旅行)】

国内需要は前年同月比で166.8%であるが前々年度比では25%程度である。また海外案件はゼロである。組合ではGOTOトラベル宿泊調査員派遣事業を受注し、組合員16社で20名が9月中旬に県内宿泊施設のコロナ対策を調査する。

【建設業 (リフォーム)】

資金については、国の政策としての無利息融資で助けられている。コロナにより自宅に目が向くようになったためか、リフォーム需要は増えている。

【運輸業 (トラック)】

燃料の高騰が止まらない中、9月はさらに上昇する見込みである。東京方面からの帰り便の荷物が不足している。

※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、増加 (好転) したとする企業割合から、減少 (悪化) したとする企業割合を差し引いた値です。